

[物語絵と縁起絵展によせて]

## 伊勢物語の絵入り版本について

伊勢物語は、平安時代の王朝物語を代表する作品として知られ、長く人々に読まれ継がれてきました。伊勢物語の名は、源氏物語の中の「絵合の巻」に登場することから、平安時代半ばにはすでに伊勢物語が広く読まれていたこと、そして伊勢物語を絵画化した絵巻も存在していたことを窺い知ることができます。残念ながら、平安時代の伊勢物語絵巻は現存しませんが、鎌倉から江戸にかけて多くの伊勢物語絵が描かれ続けます。特に江戸時代には、絵巻、扇、画帖、屏風など様々な形式の作例が数多く残っています。そしてまた、この江戸時代においては、伊勢物語の版本が登場し、他に類を見ないほど大量に出版されることとなります。それにより、これまで一部の上流階級の中で、写本として読み継がれてきた伊勢物語が、より多くの人々によって読まれるようになったのです。江戸時代に数多く出版された伊勢物語版本の嚆矢となったのは、慶長13年(1608)から15年(1610)にかけて京都の豪商角倉素庵によって出版された「嵯峨本伊勢物語」でした。そして、この「嵯峨本伊勢物語」には挿絵が添えられていたため、その後出版された

伊勢物語版本の多くが、挿絵を伴った絵入り版本となります。

大和文華館が所蔵する、京都・吉田神社の社司中臣(鈴鹿)家に伝わった典籍類「鈴鹿文庫」にも、伊勢物語の絵入り版本が含まれています。そこで今回は、その中の二つの作品を取り上げてみたいと思います。

まず一つ目の作品は、奥書に「寺町二条上ル町 袋屋十郎兵衛」と記されたものです。奥書より出版元は分かりますが、刊行年や挿絵を描いた画家の名前は記されていません。伊勢物語の絵入り版本においては、嵯峨本が非常に大きな影響力を持ち、多くの版本が嵯峨本の挿絵の構図を援用しているのですが、この袋屋十郎兵衛出版の本もそうした傾向が見られます。ただ嵯峨本をそのまま真似るのではなく、やや視点を高く取り、遠景の山々を描いたり、人物の数を少し増やしたりしている点に特徴があります(図1・図2)。

一方で、江戸時代半ばころになると、嵯峨本の枠組から抜け出し、より一枚の作品として楽しめるような挿絵が登場するようになります。そして、二つ目の作品は、こうした新た

な展開がよく表れたもので、上方を代表する浮世絵師として知られる西川祐信が挿絵を描いています。この西川祐信の挿絵は、嵯峨本の挿絵と比べ、数はだいぶ少なくなっていますが、見開きで大きく挿絵のスペースを取ったり、本文からやや離れた位置に挿絵を載せたりすることが多く、本文から自立し、挿絵そのものが楽しめるようになっていくことが窺えます。人物の描写は浮世絵風で、祐信らしい優雅な趣がよく表現されています。また、時に本文にはない要素が挿絵に描かれることも特徴の一つです。例えば、第九段(八橋・宇津山・富士山・墨田川)のうち、富士山の場面の挿絵(図3)には、富士山を見上げる男とその従者たちの右奥に、橋とカキツバタ、つまり八橋の風景が描かれています。確かに、同じ九段に八橋は登場しますが、八橋と富士山の間には、宇津山の場面があります。宇津山を飛ばして、八橋と富士山をつなげて描くこの挿絵は、本文の内容からは少し離れたものと言えます。この富士山の挿絵の数ページ前には、八橋の場面の挿絵もあることから、この二つの挿絵が同じ九段を絵画化したものとして、連続性を持たせたかったのでしょうか。また、この富士山の挿絵に関して注目されるのが、主人公の男の富士山を見上げる姿勢です。富士山に対し背を向け、正面を向いた姿勢のまま、顔を後ろにひねるようにして富士山を見上げるといふ、かなり不自然な形となって

いるのです。そして、こうした姿勢は、それまでの伊勢物語絵にはあまり見られないのですが、伊勢物語の富士山をモチーフとした浮世絵の作品には多く見られるのです(図4)。こうした図様は、やや大げさな動作を好む浮世絵の中で特に好まれたのでしょうか、祐信の作例は影響力の大きい絵入り版本に載せられているため、こうした図様の継承にどのように関わっているのか、興味深いところでは。

ところで、鈴鹿文庫は、先の袋屋十郎兵衛出版本は、上下二巻のうち下巻のみを、西川祐信挿絵本は、上下二巻のうち上巻のみを所蔵しているのですが、もとは別々のセットのものであったこの二巻は、糸で合わされて一組とされています。いつこのように組み合わせられたかは分かりませんが、嵯峨本が、上下二巻で、上巻が第四十八段まで、下巻が第四十九段からとなっているため、他の版本も嵯峨本と同じ段で上下巻に分かれるものが多く、別のセットのものを合わせた鈴鹿文庫の二巻も、段が重なったり、足りなかったりすることなく、全段を見ることができます。やや特異な例ですが、このような点からも伊勢物語絵入り版本における嵯峨本の影響の大きさが感じられます。(宮崎もも)

(挿図1は、伊藤敏子『伊勢物語絵』角川書店1984年より、挿図4は『浮世絵聚花ボストン美術館2』小学館1985年より複写させて頂きました。)

図1 嵯峨本 伊勢物語



図2 袋屋十郎兵衛出版本 伊勢物語



図3 西川祐信挿絵本 伊勢物語

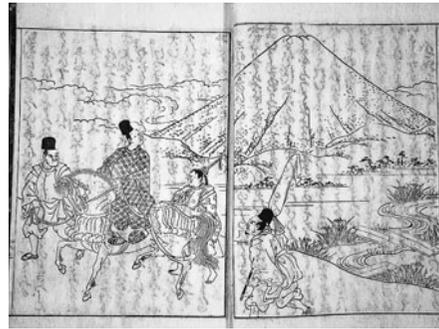


図4 鳥居清長筆 伊勢物語見立吾妻下りボストン美術館蔵



季刊 美のたより No.152

平成17年10月 8 日

発行 大和文華館